

写真部 第33回全国高等学校写真選手権大会

写真甲子園 2026 優秀賞【上富良野町長賞】 受賞

今年は全国 463 校の初戦応募校のうち、11 のブロック審査会を勝ち抜いた 18 校が 7 月 28 日（火）から 31 日（金）まで北海道東川町などで開催された第 33 回全国高等学校写真選手権大会（『写真甲子園 2026』）本戦大会で鎬を削りました。



羽田空港で「頑張るぞー」



本戦ではファーストとファイナルの 2 回の審査会があり、それぞれ 8 枚 1 組の組作品とプレゼンテーションが課されます。ファーストでは上富良野町と東神楽町を舞台に 2 回の撮影ステージとセレクト会議によって、テーマに沿った制作をし、公開審査会でその意図をプレゼンしました。その後のファイナルではテーマは任意となり、旭川市と東川町での 3 回の撮影ステージとセレクト会議を経て制作とプレゼンを行いました。



開会式前 エスコートキッズと



プレゼンの打ち合わせをしています。

ファースト審査会では、「いまあなたに」と題してホームステイ先の娘さん、上富良野フラワーランド付近のホップ畑で出会った生産者さん、東神楽町で出会ったカラス、東川町開会式でエスコートしてくれた子どもたちなど、その場で出会った人々や風景を撮影した 8 枚を組み合わせテーマ『気づく』に即した作品を提出しました。



東京ブロック代表 東京都立総合芸術高等学校

「いまあなたに」



ファイナル公開審査会

なお各審査会の様子は、写真甲子園 2026 のサイトでご覧になれます。

都心に位置する本校ならではの、視覚情報やレイヤーの多い縦構図のスナップ 8 枚でグラフィカルに構成するスタイルに審査員の方々が大きな可能性を感じてくださっていることが伝わり、そして更にここから一枚一枚の強度を上げてよりソリッドなストーリー性を紡ぐ課題が与えられました。



ファイナル審査会ではこれを受けて、「あのときのわたしは」というタイトルで、色や形や質感など視覚要素を大切にする制作の方法はそのままに、町の農家や幼児センターなどで撮影した写真をセレクトし、大人になるなかで忘れてしまうものの見方や目線や感覚のあり方と複数の時間軸を意識したストーリーを組み立てました。



「キラキラ」を見つけた過去の自分の目でこれからを見たいというところが多く、審査委員の共感を得て、全体に色や線や形が繋がって視覚的な流れを作る構成や、見るところがたくさんある個別の作品の写真的な面白さ、前回よりも流れが明確になり一つの作品として確かな物語が立ち上がっていることが評価されました。



総じて、写真部としても今後への手応えを感じられる結果となりました。

応援して下さった皆さんをはじめ、関わって下さった全ての皆さんへ心から感謝申し上げます。



2 列目右側にいます。



大会終了したのに撮影して
いて若干引かれています。



ホームステイ先のお子さんから
「優秀賞おめでとう賞」を授与されました。